UBE株式会社

2027年3月期
第1四半期決算

説明資料

2026年8月7日(金)

第1四半期決算のポイント

UBE株式会社

連結損益

1. 売上高・営業利益は、ウレタンシステムズ事業の連結損益への寄与に加え、機能品セグメントの主要製品の販売好調、樹脂・化成品セグメントの原料価格高騰等に伴う販売価格是正等により、増収増益。
2. 経常利益は、持分法投資利益の改善等により増益幅が営業利益より拡大したが、親会社株主に帰属する四半期純利益は税金費用の増加により減益。
3. 営業利益の増益には原料価格等の高騰に伴う在庫評価差が影響していることから、現時点では業績予想を修正せず、今後の進捗状況を見極めた上で対応。

（単位：億円）

項　目	2026年3月期 第1四半期 (A)	2027年3月期 第1四半期 (B)	差　異 (B) - (A)
売上高	1,005	1,219	214
EBITDA	89	130	41
営業利益	29	56	26
経常利益	62	113	51
親会社株主に帰属する四半期純利益	44	42	△ 2

貸借対照表

1. 持分法適用関連会社であるUBE三菱セメント㈱から受領した配当金により有利子負債を削減。
2. 資本・負債のバランスを適切にコントロールし、財務健全性を維持。

トピックス

1. ポリイミドフィルム製造設備は、2026年4月より営業運転を開始。セラミックス及びセパレータ製造設備は、試運転中。早期に営業運転開始を目指す。
2. UBE三菱セメント㈱は、2026年7月に東京証券取引所へ上場を申請。

株主還元

1. DOE3.5%に基づき、2027年3月期の年間配当予想は1株当たり160円(中間配当80円、期末配当80円)。
2. DOE水準は現行の3.5%以上から4.0%以上への引き上げを目指すとともに、今後、機械事業・セメント関連事業のIPO資金の一部による自己株式取得を検討。

2027年3月期 第1四半期決算概要

UBE株式会社

連結対象会社

項目	2026年3月期末 （A）	2027年3月期 第1四半期末 （B）	増減 （B）-（A）	摘　要
連結 子会社数	46社	46社	―	
持分法 適用会社数	17社	16社	△1社	― エムシー・ファーティコム株式会社
計	63社	62社	△1社	

UBE株式会社

環境要因

項　目				2026年3月期 第1四半期 (A)	2027年3月期 第1四半期 (B)	差　異 (B) - (A)
為替レート			円/$	144.6	159.5	14.9
資材価格	ナフサ	CIF	$/t	633	1,018	385
		国産	円/KL	65,900	114,100	48,200
	豪州炭（CIF）		$/t	138.3	160.8	22.5
			円/t	19,990	25,638	5,648

UBE株式会社

主要項目

- 売上高・営業利益は、ウレタンシステムズ事業の連結損益への寄与に加え、機能品セグメントの主要製品の販売好調、樹脂・化成品セグメントの原料価格高騰等に伴う販売価格是正等により、増収増益。
- 経常利益は、持分法投資損益の改善等により増益幅が営業利益より拡大したが、親会社株主に帰属する四半期純利益は税金費用の増加により減益。

（単位：億円）

項　目	2026年3月期 第1四半期 (A)	2027年3月期 第1四半期 (B)	差 異 (B) - (A)	増減率
売上高	1,005	1,219	214	21.3%
EBITDA	89	130	41	45.3%
営業利益	29	56	26	88.6%
経常利益	62	113	51	81.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	44	42	△ 2	△ 3.9%

UBE株式会社

セグメント別 売上高/営業利益

（単位：億円）

	セグメント	2026年3月期 第1四半期 (A)	2027年3月期 第1四半期 (B)	差 異 (B) - (A)	増減率
売上高	機能品	174	206	31	18.0%
	高機能ウレタン	32	157	125	397.0%
	医薬	43	47	4	9.8%
	樹脂・化成品	590	655	65	11.0%
	機械	145	141	△ 4	△ 2.8%
	その他	86	94	8	9.0%
	調整額	△ 66	△ 81	△ 15	-
	計	1,005	1,219	214	21.3%
営業利益	機能品	19	32	13	69.2%
	高機能ウレタン	△ 4	6	10	-
	医薬	△ 6	△ 5	1	-
	樹脂・化成品	12	26	14	114.7%
	機械	11	11	0	2.9%
	その他	5	5	△ 0	△ 5.0%
	調整額	△ 8	△ 20	△ 12	-
	計	29	56	26	88.6%

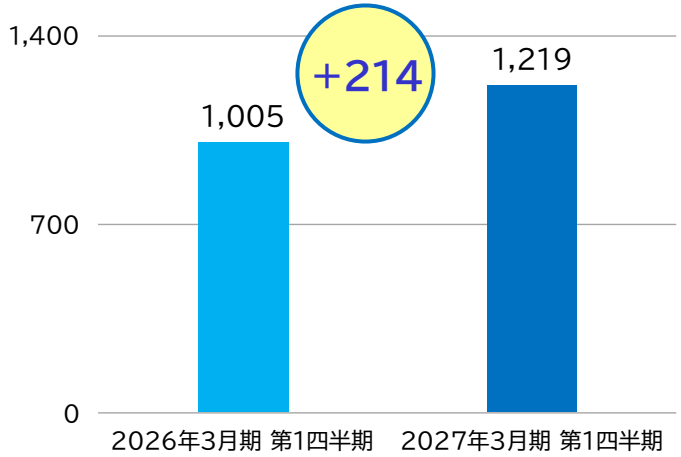
（注）・2026年3月期において、マテリアルリサイクル樹脂製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。2026年3月期第1四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。
・2027年3月期より、UBE America Inc.を「樹脂・化成品」から「機能品」へセグメント変更しています。2026年3月期第1四半期実績は、新しいセグメントに組み替えた場合の参考値です。

UBE株式会社

差異分析 全社

（単位：億円）

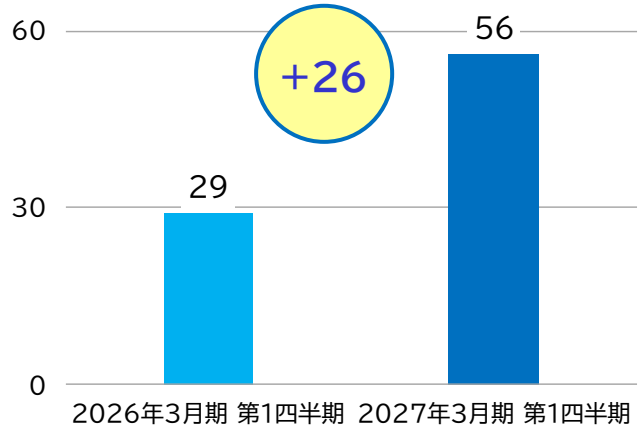
売上高



機能品	31
高機能ウレタン	125
医薬	4
樹脂・化成品	65
機械	△ 4
その他	8
調整額	△ 15

21.3% 増収

営業利益



機能品	13
高機能ウレタン	10
医薬	1
樹脂・化成品	14
機械	0
その他	△ 0
調整額	△ 12

88.6% 増益

定性情報

売上高：増収

- 高機能ウレタン　：前年同期に連結損益に含まれていなかったウレタンシステムズが当四半期は寄与。
- 樹脂・化成品　：ナイロンポリマーやエラストマーの販売価格が上昇。
- 機能品　：主要製品の販売数量が増加。

営業利益：増益

- 中東情勢の影響により原燃料価格が高騰したものの、ウレタンシステムズの寄与に加え、機能品の主要製品の販売が堅調に推移。

営業利益差異

価格差 ※1	9
数量差	△ 1
固定費ほか ※2	17
計	26

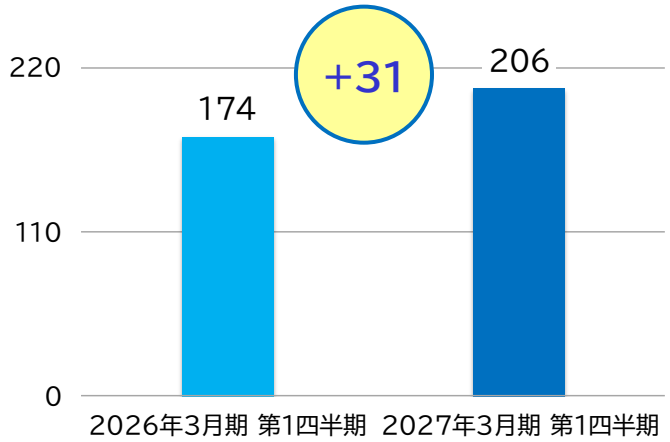
※1：資材単価差含む
※2：在庫評価差含む

UBE株式会社

差異分析 機能品

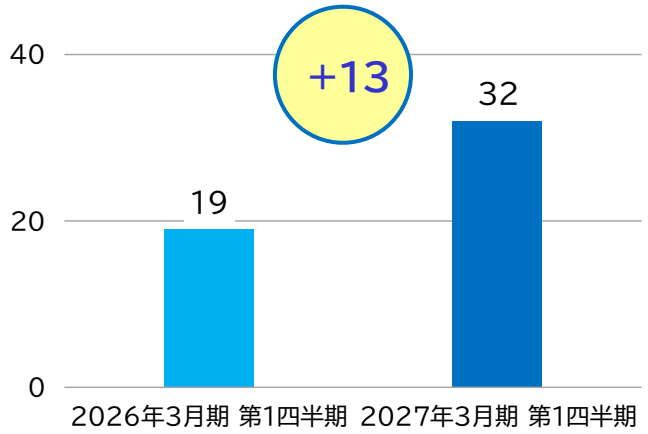
（単位：億円）

売上高



18.0% 増収

営業利益



69.2% 増益

定性情報

売上高：増収

- ポリイミド　：FPC向けフィルム及び有機ELパネル向けワニスの需要がスマートフォン用途で堅調。原料BPDAも販売数量が増加。
- 分離膜　：バイオメタン製造向け脱炭酸膜の需要に在庫調整局面から回復の動き。窒素分離膜の需要も設備機器用途等で増加。
- セラミックス　：電動車の軸受向けの販売数量が増加。
- セパレータ　：ハイブリッド自動車向けの需要増加等に伴い販売数量が増加。
- フェノール樹脂　：半導体向けの需要増加に伴い販売数量が増加。

営業利益：増益

- ポリイミド、分離膜及びフェノール樹脂などが堅調に推移。

営業利益差異

価格差 ※1	△ 3
数量差	9
固定費ほか ※2	7
計	13

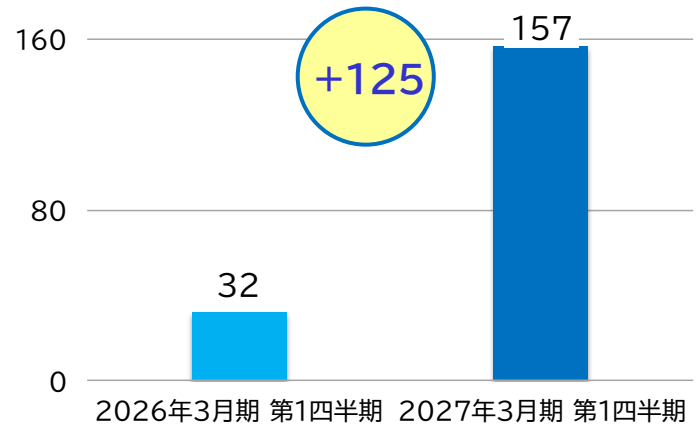
※1：資材単価差含む
※2：在庫評価差含む

UBE株式会社

差異分析 高機能ウレタン

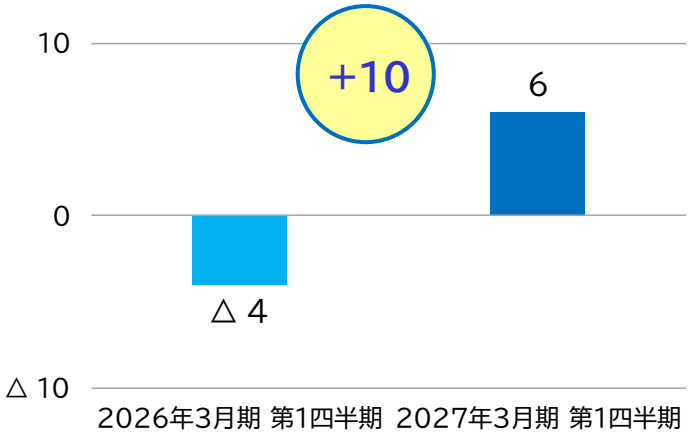
（単位：億円）

売上高



397.0% 増収

営業利益



－

定性情報

売上高：増収

- ウレタンシステムズ：2025年4月に事業取得。同事業を営む各社が12月決算であるため前年同期の連結損益には含まれていなかったが、当第1四半期は寄与。
  米国市場を中心に半導体向けを含む主要用途の需要は堅調。
- 高機能コーティング：海外での販売が堅調に推移。

営業利益：増益

- ウレタンシステムズの損益が反映。
- 高機能コーティングの販売が堅調に推移。

営業利益差異

価格差 ※1	2
数量差	0
固定費ほか ※2 ※3	8
計	10

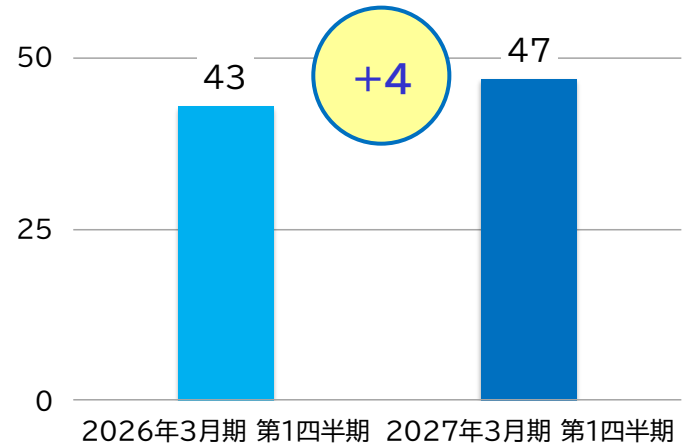
※1：資材単価差含む
※2：在庫評価差含む
※3：ウレタンシステムズの価格差、数量差含む

UBE株式会社

差異分析 医薬

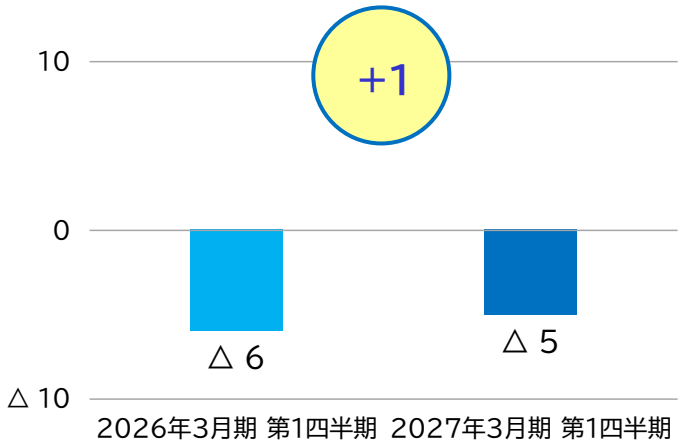
（単位：億円）

売上高



9.8% 増収

営業利益



－

定性情報

売上高：増収

- 受託品の販売数量が増加

営業利益：増益

- 受託品の販売数量が増加

営業利益差異

価格差 ※1	1
数量差	2
固定費ほか ※2	△ 3
計	1

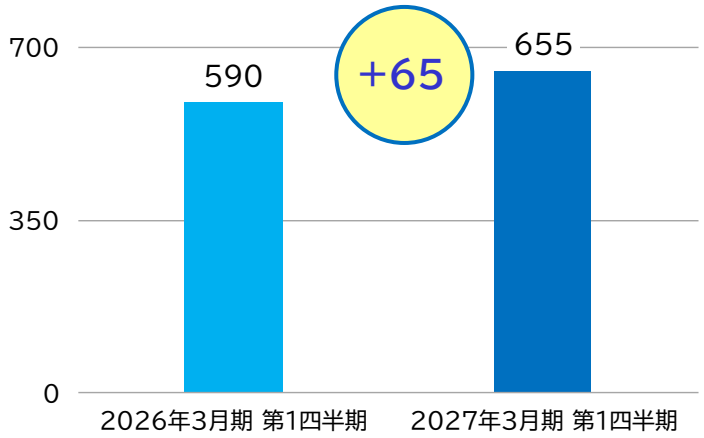
※1：資材単価差含む
※2：在庫評価差含む

UBE株式会社

差異分析 樹脂・化成品

（単位：億円）

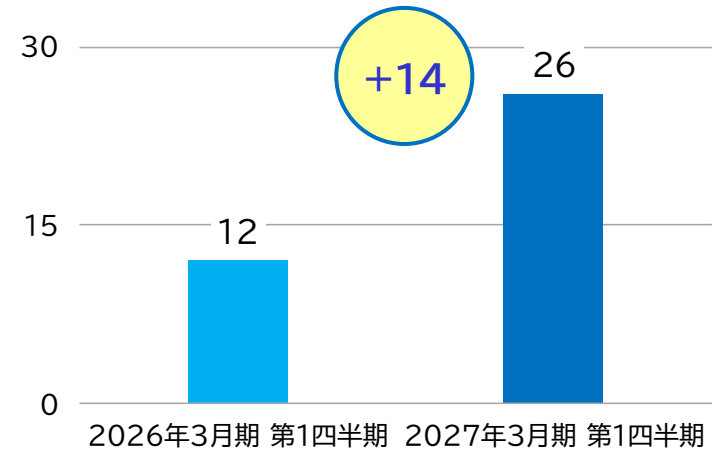
売上高



ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽﾎﾟﾘﾏｰ & ｹﾐｶﾙｽﾞ	10
エラストマー	55

11.0% 増収

営業利益



ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽﾎﾟﾘﾏｰ & ｹﾐｶﾙｽﾞ	16
エラストマー	△ 2

114.7% 増益

定性情報

売上高：増収

- コンポジット：自動車向けの需要が底堅く推移する中で、原料価格高騰等に伴い販売価格を是正。
- ナイロンポリマー：事業構造改革の一環として2026年3月にタイの製造設備を縮小し販売数量が減少したものの、原料価格高騰等に伴い販売価格を是正。
- エラストマー：原料価格の高騰により販売価格が上昇。

営業利益：増益

- ナイロンポリマーの増益

営業利益差異

価格差 ※1	2
数量差	△ 12
固定費ほか ※2	24
計	14

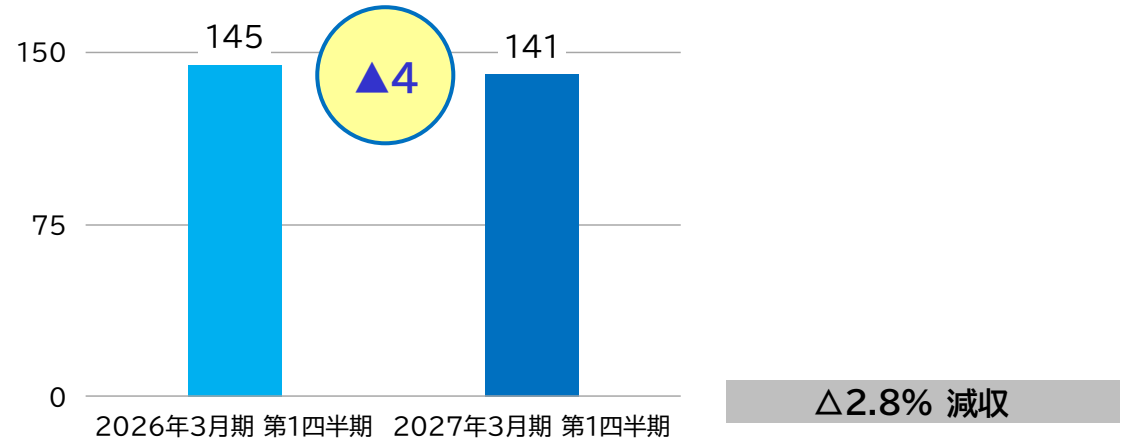
※1：資材単価差含む
※2：在庫評価差含む

UBE株式会社

差異分析 機械

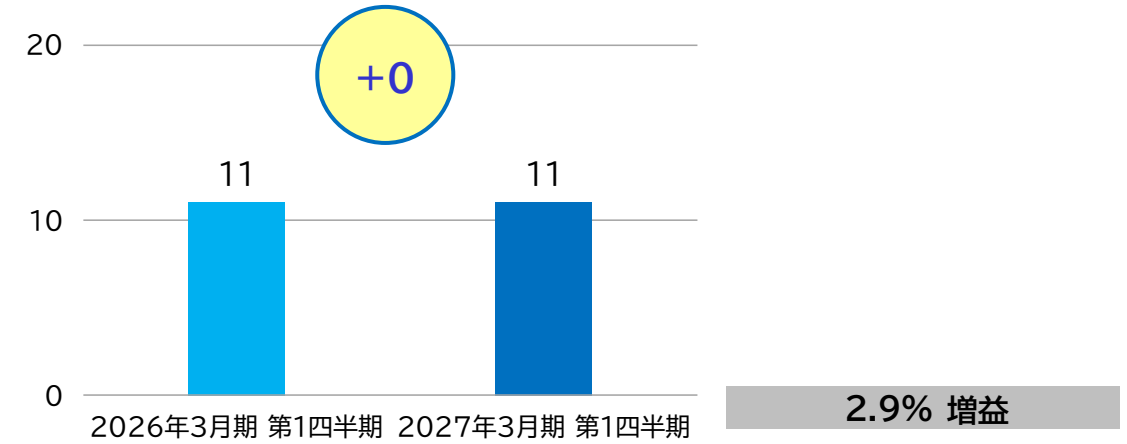
（単位：億円）

売上高



△2.8% 減収

営業利益



2.9% 増益

定性情報

売上高：減収

- 成形機　　：自動車産業向け製品の販売が減少。

営業利益：増益

- 成形機事業、産機事業ともにアフターサービスが堅調だったことから、前年同期並み

営業利益差異

機械部門限界利益　4

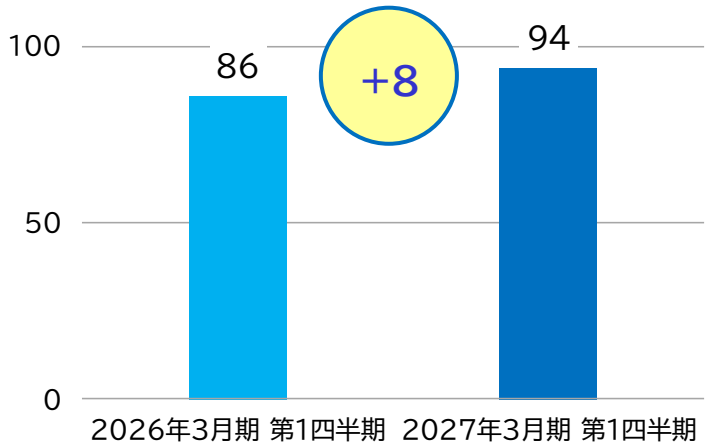
（機械製品は個別受注生産品のため、価格差・数量差の差異分析を行っていない）

UBE株式会社

差異分析 その他

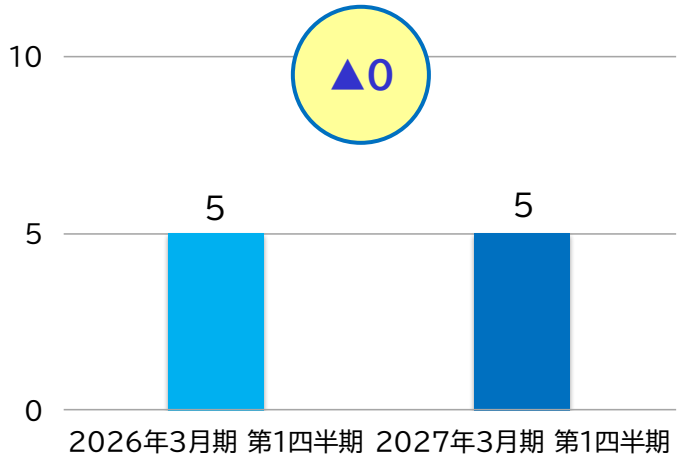
（単位：億円）

売上高



9.0% 増収

営業利益



△5.0% 減益

定性情報

売上高：増収

- 電力　　：石炭価格の上昇により売電価格が上昇。

営業利益：減益

- 自家発電所における隔年実施の定期修理があり、前年同期並み。

営業利益差異

価格差 ※1	7
数量差	△ 1
固定費ほか	△ 6
計	△ 0

※1：資材単価差含む

UBE株式会社

営業利益～四半期純利益

- 営業外損益は、化学事業の持分法適用関連会社及びUBE三菱セメントグループに係る持分法投資損益の増加に加えて、米ドル及びユーロに対する円安に伴う為替差損益の改善により増益。
- 特別損益は、タイにおける生産設備の前倒し停止に伴う関連事業損失の計上により悪化。
- 法人税等・非支配株主利益は、税金等調整前四半期純利益の増益に伴う法人税等の増加により悪化。

（単位：億円）

項　目	2026年3月期 第1四半期 (A)	2027年3月期 第1四半期 (B)	差　異 (B) - (A)
営業利益	29	56	26
営業外損益	33	57	24
金融収支	△ 5	△ 5	△ 1
持分法投資損益	40	54	14
うちUBE三菱セメントグループに係る持分法投資損益	34	37	3
為替差損益	△ 1	10	11
その他	△ 1	△ 1	△ 0
経常利益	62	113	51
特別損益	△ 3	△ 13	△ 10
税金等調整前四半期純利益	59	99	41
法人税等・非支配株主利益	△ 15	△ 57	△ 42
親会社株主に帰属する四半期純利益	44	42	△ 2
1株当たり四半期純利益	44.90円	43.15円	△ 1.75円

（注）2026年3月期において、マテリアルリサイクル樹脂製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。
2026年3月期第1四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

UBE/UBE株式会社

貸借対照表

- 総資産(負債・純資産合計)は、UBE三菱セメント(株)から受領した配当金を有利子負債の返済に充当したことにより縮小。
- 固定資産は同配当金の受領に伴う関係会社株式の減額により縮小。流動資産は現預金及び棚卸資産の増加により拡大。
- 負債は、買掛金が増加したものの、配当金を原資とした有利子負債の返済により縮小。
- 純資産は、配当金の支払いがあったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益及び円安に伴う為替換算調整額の増加により拡大。

(単位:億円)

項 目		2026年3月期末 (A)	2027年3月期 第1四半期末 (B)	差 異 (B) - (A)
資産	流動資産	3,083	3,218	135
	固定資産	6,378	6,179	△ 199
	合 計	9,463	9,399	△ 64
負債	有利子負債	3,582	3,403	△ 179
	その他負債	1,332	1,426	94
	計	4,914	4,829	△ 84
純資産	自己資本 *	4,372	4,391	19
	非支配株主持分他	177	178	1
	計	4,549	4,569	20
負債・純資産合計		9,463	9,399	△ 64

＊「自己資本」…純資産から新株予約権と非支配株主持分を除外したもの

UBE株式会社

キャッシュ・フロー計算書

- 投資活動によるキャッシュ・フローは、前期にウレタンシステムズ事業の買収に伴い多額の支出を計上した一方、今期はUBE三菱セメント(株)からの配当金受領があり、大きく変動。

(単位:億円)

項　目	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	
A.営業活動によるCF	209	226	税金等調整前四半期純利益 99 減価償却費 68 運転資金の増減 92 他
B.投資活動によるCF	△ 770	132	設備投資 △168 UBE三菱セメントからの配当金 287 他
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	△ 561	357	
C.財務活動によるCF	△ 203	△ 267	有利子負債の増減 △210 配当金の支払 △57 他
D.現金及び現金同等物の増減 (含、換算差額等)	△ 749	97	
E.現金及び現金同等物の四半期末残高	406	623	

(注) 2026年3月期において、マテリアルリサイクル樹脂製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。
2026年3月期第1四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

参考資料

UBE株式会社

主要項目　進捗率

（単位：億円）

項　目	2026年3月期（A）		2027年3月期（B）		差　異（B）-（A）	
		第1四半期実績（進捗率）		第1四半期実績（進捗率）		第1四半期実績
売上高	4,623	1,005（21.7%）	4,850	1,219（25.1%）	227	214
EBITDA	464	89（19.3%）	565	130（23.0%）	101	41
営業利益	189	29（15.5%）	235	56（23.6%）	46	26
経常利益	375	62（16.5%）	375	113（30.0%）	△ 0	51
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益	239	44（18.3%）	245	42（17.1%）	6	△ 2

UBE株式会社

売上高 四半期業績推移

（単位：億円）

セグメント	2027年3月期					通期予想	進捗率
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	累計		
機能品	206	－	－	－	206	890	23.1%
高機能ウレタン	157	－	－	－	157	680	23.1%
医薬	47	－	－	－	47	210	22.4%
樹脂・化成品	655	－	－	－	655	2,390	27.4%
機械	141	－	－	－	141	700	20.2%
その他	94	－	－	－	94	360	26.1%
調整額	△ 81	－	－	－	△ 81	△ 380	－%
計	1,219	－	－	－	1,219	4,850	25.1%

UBE株式会社

営業利益 四半期業績推移

（単位：億円）

セグメント	2027年3月期					通期予想	進捗率
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	累計		
機能品	32	－	－	－	32	150	21.6%
高機能ウレタン	6	－	－	－	6	10	60.8%
医薬	△ 5	－	－	－	△ 5	5	－%
樹脂・化成品	26	－	－	－	26	50	53.0%
機械	11	－	－	－	11	45	24.1%
その他	5	－	－	－	5	15	32.9%
調整額	△ 20	－	－	－	△ 20	△ 40	－%
計	56	－	－	－	56	235	23.6%

UBE株式会社

売上高 四半期比較

（単位：億円）

セグメント	2026年3月期 第4四半期 （A）	2027年3月期 第1四半期 （B）	差異 （B）-（A）	差異要因
機能品	192	206	14	
高機能ウレタン	150	157	7	
医薬	65	47	△ 17	
樹脂・化成品	659	655	△ 4	パフォーマンスポリマー&ケミカルズ　△ 65 エラストマー　60
機械	217	141	△ 76	
その他	89	94	4	
調整額	△ 71	△ 81	△ 10	
計	1,302	1,219	△ 83	

UBE株式会社

営業利益 四半期比較

（単位：億円）

セグメント	2026年3月期 第4四半期 （A）	2027年3月期 第1四半期 （B）	差異 （B）-（A）	差異要因
機能品	31	32	2	
高機能ウレタン	4	6	2	
医薬	△ 4	△ 5	△ 1	
樹脂・化成品	1	26	26	パフォーマンスポリマー&ケミカルズ △ 3 エラストマー 29
機械	24	11	△ 13	
その他	3	5	2	
調整額	△ 19	△ 20	△ 1	
計	40	56	15	

UBE株式会社

ポートフォリオ別 売上高/営業利益

（単位：億円）

	ポートフォリオ	2026年3月期 第1四半期 （A）	2027年3月期 第1四半期 （B）	差異 （B）-（A）
売上高	スペシャリティ事業	373	605	232
	構造改革事業	439	446	7
	機械事業	145	141	△ 4
	その他（調整額を含む）	48	28	△ 20
	計	1,005	1,219	214
営業利益	スペシャリティ事業	38	57	18
	構造改革事業	△ 15	6	20
	機械事業	11	11	0
	その他（調整額を含む）	△ 5	△ 18	△ 13
	計	29	56	26

（注）2027年3月期よりUBE America Inc.を「樹脂・化成品」から「機能品」へセグメント変更しました。
2026年3月期第1四半期実績についても比較のため同様に組み替えています。

UBE株式会社

UBE三菱セメント

■UBE三菱セメント㈱ 連結損益計算書　（単位：億円）

項　目		2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期
売上高	国内事業	857	928
	海外事業	450	455
	計	1,308	1,383
営業利益	国内事業	21	56
	海外事業	89	59
	計	110	115
経常利益		120	121
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益		65	69

■UBE㈱ 持分法投資損益

持分法による投資利益	34	37

■UBE三菱セメント㈱ 定量情報

項　目		2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期
セメント（国内）総需要	（万t）	764	721
セメント（国内）販売数量	（万t）	187	173
セメント（米国）販売数量	（万st）	42	35
生コン（米国）販売数量	（万cy）	164	142
一般炭価格（参考指標）*	（$/t）	100	136
ドル為替レート	（円/ドル）	145	159

＊上記一般炭価格は参考指標であり、実際の調達価格とは異なる。

（参考）2027年3月期 第1四半期　連結貸借対照表　（単位：億円）

総資産	8,222	有利子負債	2,335	自己資本	3,113
自己資本比率	37.9%	D/Eレシオ	0.75倍		

2027年3月期　第1四半期実績

- 国内事業：国内セメント事業は、前年に引き続き建設現場の人手不足や工期の長期化等による国内需要減少の影響を受け、セメントの販売数量は前年同期を下回ったものの、前期に実施した値上げの浸透により販売価格は前年同期を上回った。加えて、前年同期に実施したIPP発電設備の定期修理及び設備トラブルが今期はないことにより、環境エネルギー事業において販売数量が増加し、またコストが減少した。これにより国内事業全体では前年同期比で増収増益となった。
- 海外事業：売上高は、米国の金利高止まりを背景とした民間需要の低迷継続等により販売数量は減少したものの、円安の影響により前年同期比で増収となった。営業利益は、燃料費や輸送コスト等の増加もあり、前年同期比で減益となった。

UBE株式会社

連結主要指標

（単位：億円）

項目	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	2027年3月期 ＜予想＞	2026年3月期
設備投資	78	175	850	690
減価償却費	59	68	310	257
研究開発費	25	36	130	124
事業利益 *	73	115	415	354
有利子負債残高	3,167	3,403	4,150	3,582
自己資本	3,929	4,391	4,500	4,372
総資産	8,519	9,399	10,200	9,463
D/Eレシオ（倍）	0.82	0.77	0.92	0.82
自己資本比率（%）	46.2	46.7	44.1	46.2
売上高営業利益率（%）	2.9	4.6	4.8	4.1
総資産事業利益率（%）	–	–	4.2	3.9
自己資本当期純利益率（%）	–	–	5.5	5.7
投下資本利益率（%）	–	–	4.0	3.8

＊ 事業利益：営業利益＋受取利息・受取配当金＋持分法による投資損益

（注）・2026年3月期において、マテリアルリサイクル樹脂製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。
2026年3月期第1四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。
・2026年3月期において、ウレタンシステムズ事業を営む子会社11社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。
2026年3月期第1四半期末に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

UBE株式会社

主要連結子会社

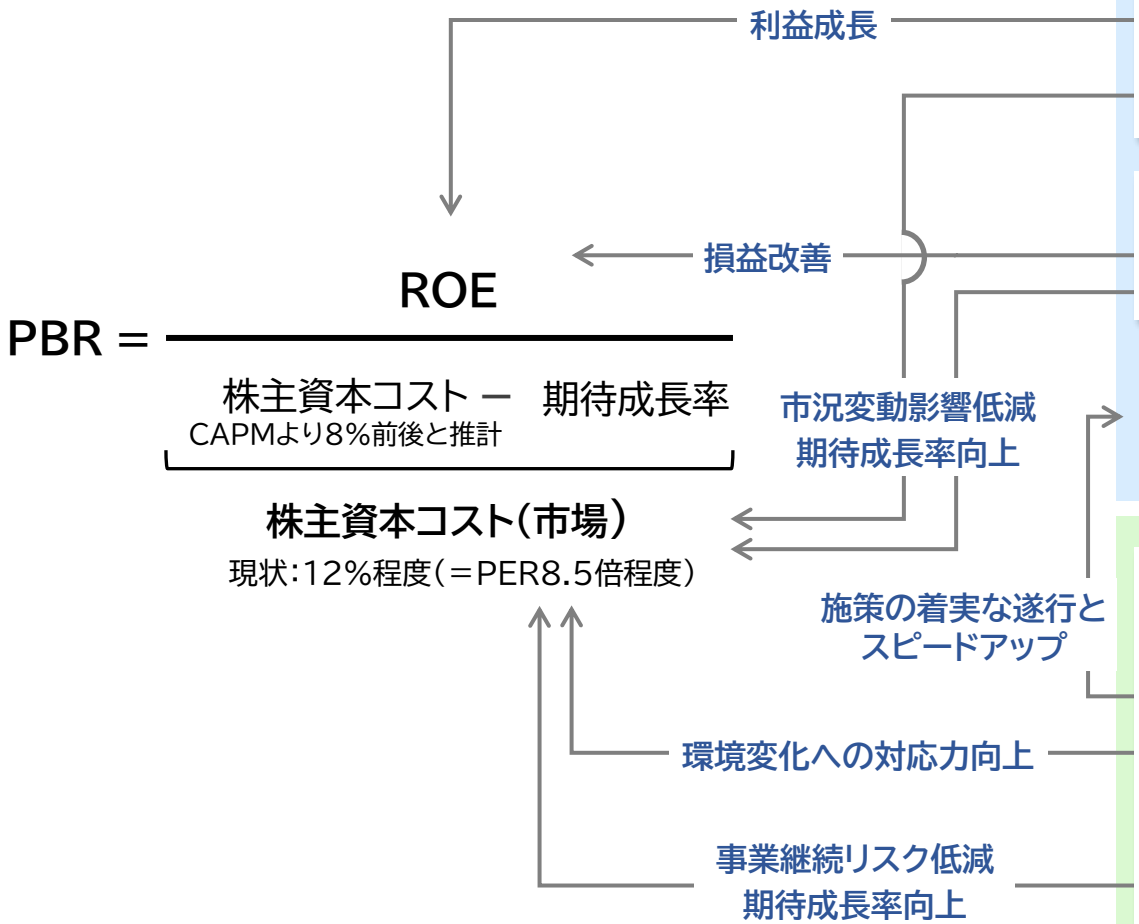
（単位：億円）

会 社 名	事 業 内 容	売上高 2027年3月期 第1四半期	営業利益 対2026年3月期 第1四半期
UBE CORPORATION EUROPE S.A.U.	コンポジット、ナイロンポリマー、カプロラクタム、硫安、高機能コーティング等の製造・販売	177	↑
UBE Chemicals (Asia) Public Company Limited	コンポジット、ナイロンポリマーの製造・販売	53	↑
THAI SYNTHETIC RUBBERS COMPANY LIMITED	ポリブタジエン（合成ゴム）の製造・販売	88	↓
宇部フィルム株式会社	プラスチックフィルム製品の製造・販売	32	→
宇部エクシモ株式会社	電子・情報通信関連製品等の製造・販売	31	→
UBEマシナリー株式会社	成形機、産業機械、橋梁等の製造・販売 成形機、産業機械のアフターサービス	93	↓

（注）↑↓は1億円以上の増減を示す

（参考）「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について

UBE株式会社



スペシャリティ事業の拡大

- 市場成長に合わせた能力拡大とともに、周辺領域におけるM&A等も活用し、着実な利益成長を推進。
- 注力ドメインにおける新規事業創出に向けた活動を強化。

事業構造改革

- アンモニア、カプロラクタム、ナイロンポリマーの構造改革を着実に実施。

✓ 収益性の改善を図りROE（ROIC）を向上。
✓ 市況変動に左右され難く、GHG排出量の少ない事業ポートフォリオに転換することで株主資本コストを低減。

サステナビリティ経営の推進

- 女性の活躍推進及び専門性の高いキャリア採用の拡大等により多様性を高め、「イノベーティブな風土」を醸成。
- スペシャリティ事業の成長を牽引する人財を計画的に育成。
- DXの推進による業務の効率化・高度化。

- 2030年のGHG排出量削減目標50%（2013年度比）（達成見込み）。
- 環境貢献型製品・技術の拡大。

✓ 経営基盤を強化し、中長期にわたる持続的な成長を実現。

（参考）「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について

UBE株式会社

利益成長

損益改善

$$PBR = \frac{ROE}{\text{株主資本コスト} - \text{期待成長率}}$$

CAPMより8%前後と推計

市況変動影響低減
期待成長率向上

株主資本コスト（市場）

現状：12%程度（＝PER8.5倍程度）

スペシャリティ事業の拡大

- 市場成長に合わせた能力拡大とともに、周辺領域におけるM&A等も活用し、着実な利益成長を推進。
- 注力ドメインにおける新規事業創出に向けた活動を強化。

設備投資・投融資		能力	状況
✓ ポリイミド	フィルム製造設備	20%増	2026年4月営業運転開始済み
✓ 分離膜	中空糸、モジュール製造設備	80%増	2025年11月営業運転開始済み
✓ セラミックス	セラミックス製造設備	50%増	顧客認証取得後、速やかに営業運転開始（現時点では9～10月頃を想定）
✓ セパレータ	セパレータ製造設備	30%増	プラント建設中
✓ C1ケミカル	米国DMC・EMC工場建設	10万トン/4万トン	プラント建設中
✓ ウレタンシステムズ	事業取得	–	2025年4月1日取得

事業構造改革

- アンモニア、カプロラクタム、ナイロンポリマーの構造改革を着実に実施。

施策		決定状況
✓ タイ	カプロラクタム	2026年3月に生産停止（完了）
	ナイロンポリマー	2026年3月に生産縮小（完了）*
✓ 日本	カプロラクタム	2027年3月に生産停止
	ナイロンポリマー	2027年3月に生産停止
	アンモニア	2028年3月に生産停止

*現状の2系列を1系列に縮小

✓ 収益性の改善を図りROE（ROIC）を向上。
✓ 市況変動に左右され難く、GHG排出量の少ない事業ポートフォリオに転換することで株主資本コストを低減。

（参考）「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について

UBE株式会社

$$PBR = \frac{ROE}{\text{株主資本コスト} - \text{期待成長率}}$$

株主資本コスト：CAPMより8%前後と推計

株主資本コスト（市場）

現状：12%程度（＝PER8.5倍程度）

環境変化への対応力向上

事業継続リスク低減
期待成長率向上

サステナビリティ経営の推進

- 女性の活躍推進及び専門性の高いキャリア採用の拡大等により多様性を高め、「イノベーティブな風土」を醸成。
- スペシャリティ事業の成長を牽引する人財を計画的に育成。
- DXの推進による業務の効率化・高度化。

KPI	2025年度実績	2030年度目標
✓ 女性社員比率（国内連結）	17.3%	25.0%
✓ 女性管理職比率（国内連結）	5.5%	10.0%
✓ 一人当たりの人財投資額（単独）	21.6万円	30万円

- 2030年のGHG排出量削減目標50%（2013年度比）（達成見込み）。
- 環境貢献型製品・技術の拡大。

KPI	2025年度実績	2030年度目標	2035年度目標
✓ GHG排出量50%削減（2013年度比）	32%減（320万トン/年）	50%減*（237万トン/年）	70%減（142万トン/年）
✓ 環境貢献型製品・技術の売上高比率	48%	60%	－%

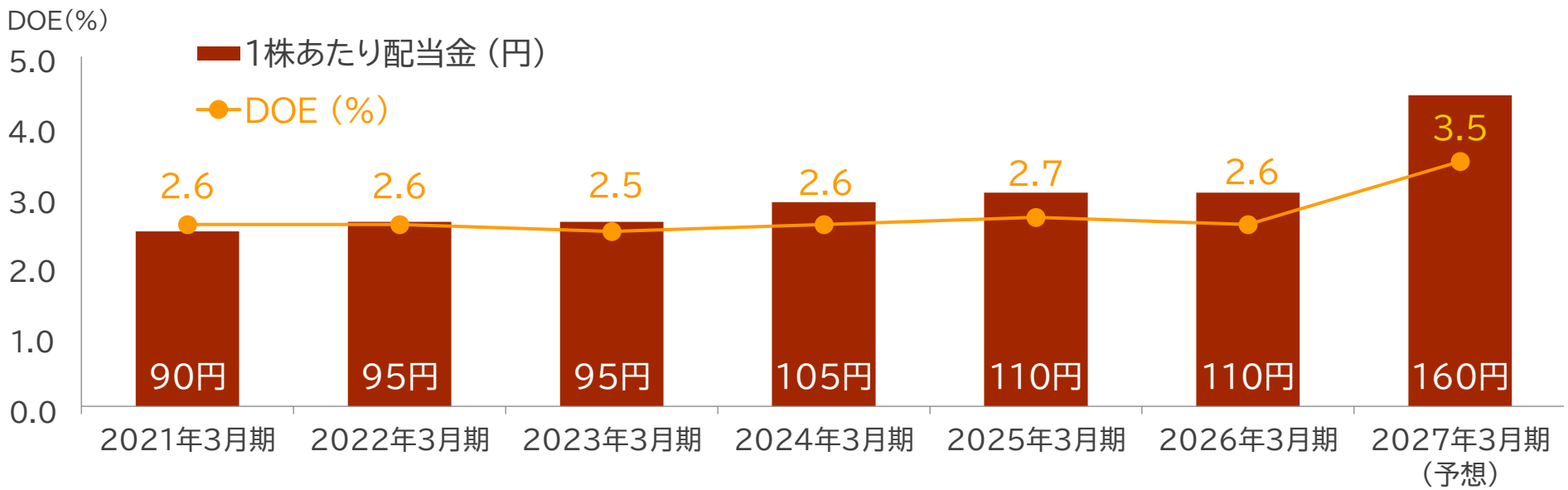
＊アンモニア・カプロラクタム・ナイロンポリマーの生産停止・縮小により**2028年度65%減（166万トン/年）**を見込む

✓ 経営基盤を強化し、中長期にわたる持続的な成長を実現。

（参考）株主還元

- 安定配当を基本方針とし、2026年度以降の株主資本配当率（DOE）を3.5%以上に引き上げる。中期経営計画の進捗を踏まえ、4.0%への引き上げを目指す。
- 機械事業、セメント関連事業のIPO資金の一部による自己株式取得を検討。

中期経営計画当初設定	2026年度以降
株主資本配当率 **2.5%**以上 （累進配当を目指す）	・株主資本配当率 **3.5%**以上 （累進配当を目指す） ・早期に**4.0%**への引き上げを目指す



UBE株式会社

定常的な損益変動要因

時期	セグメント	要因
第1四半期	樹脂・化成品	アンモニア工場（宇部地区）で隔年（偶数年）に定期修理を実施。 樹脂・化成品セグメントの営業利益にマイナス影響。
	全社	自家発電設備（宇部地区）で隔年（偶数年）に定期修理を実施。 全社の営業利益にマイナス影響。
第2四半期後半 ～第3四半期	樹脂・化成品	ナイロン原料カプロラクタムの販売数量が衣料品の秋・冬物需要の影響を受け増加。 カプロラクタム事業の営業利益にプラス影響。
第4四半期	樹脂・化成品	合成ゴム工場（千葉地区）で毎年定期修理を実施。 エラストマー事業の営業利益にマイナス影響。
	機械	売上、利益の計上が集中。 成形機、産機事業の営業利益にプラス影響。

UBE株式会社

- UBE株式会社
  - 2027年3月期 第2四半期（中間期） 決算発表
    - 2026年11月5日　15:30
  - 2027年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明会
    - 2026年11月5日　18:15　～　19:00

なお、この予定は都合により予告なく変更となる可能性があります。

UBE Transform Tomorrow Today

本資料における将来の見通しに関する記載は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因の変化によって見通しと大きく異なる場合もありえますことをご承知願います。そのような要因としては、主要市場の経済状況、製品の需給、原燃料価格、金利、為替相場等があります。但し、業績に影響を及ぼす要因はこれらに限定されるものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属します。本資料のいかなる部分も書面による当社の事前の承諾なく、複製又は転用等を行うことはできません。